

【モコ末広保育園】

●2021.12.17ふりかえり（先生3名&園長先生）



先生1：

ありがとうございました。

自然がたくさんの中で、すごくさまざまなことを体験させていただいたのですが、特に印象に残っているのが、自然のもので紙に描いてみようというもので、最初は木の



実で紙に描いて、木の実にもいろんな色があったり、またその実によって色も、つく色も違ったり、この実はつかないけどこの実はつくって、そういう一つのことから発想がもうどんどん広がっていくというか。子どもたちからもすごい興味持って、「あれ？なんかついたけど、こすったら消えちゃったよ」とか、すぐ気付いたことを子どもたちもどんどん、どんどん、言葉にしていって。

その木の実から始まって、また今度、「葉っぱでもついたよ」という声から今度葉っぱに移り、で、葉っぱでもまたちょっと紙にこすったりして見て、やっぱパリパリのよりは柔らかい葉のほうがつきやすかったり、またその柔らかいのから汁が出て、そこからおいがするって、またそのにおいのほうにも話がいたりして、すごく一つのことからいろんな発見が見られたので、子どもたちもすごく楽しそうに興味持って、ほんとに飽きずにやっていたので、すごくよかったです。

ほんとにこれだけじゃなくて、すごくいろいろ体験させてもらったのですが、いろんな虫がいるのを観察ケースに入れて近くで見たりとか、山の中も歩かせてもらったりとか、なんかほんとに、普段も結構お散歩とかで公園に行ったり山に登ったりする機会があるので、そうしたときにも今回体験させていただいたことがつながるといいなと思いました。



先生2：

一日ありがとうございました。

すごい自然がいっぱいのところで、子どもたちが何を気付いて、何を見つけて、どんなふうで遊んで、一緒に回ってくださった方とどんな関わりをしていくのかなっていうのを、すごい楽しみにして参加させてもらいました。

最後の最後、一通り葉っぱとかそういうので遊んだあとに、最後、広場のところに行って、ちょうど少しへこんだくぼみがある、穴まではいかないけど、なんかちょっと平らではない、へこんでいるところがあって、その穴がフライパンとかお鍋っていうふうで初めは見立てて、周りにあった草とか、なんか藁みたいな枝、藁とか枝とか、ほんとにただの草、ただの藁を、それが焼きそばっていうふうに見立てていたっていうところから焼きそばづくりみたいなのが始まったのですが、ちょっとこの間が私もほかのところに行っていて見られなかったのが残念なのですが。

様子を次に見にきたときは、その、さっきまで焼きそばをつくっていたのが、次は、なんか、大きな石を見つけたみたいで、それを入れて、「卵だよ」というふうで、今



度はその藁とかが鳥の巣に見えたのか、石を持ってきて「卵だよ」というふうにして、すごい大事に大事に、こう、育てている姿が見られたので、ほんとは何にも感じなければ素通りしてしまうような藁とか草とか、その穴とか石をこういうふうに見立てられるって、すごい世界も面白いだろうし、どんどんそういう見立てが広がっていけば、もっと夢が広

がるじゃないけど、楽しいなっていうのはすごい感じました。

その見立て遊びで、友達同士とかの遊びもまた広がっていったりとか、ちょっとイメージとか楽しさも共有できるようになったりすれば、またちょっとこう、友達の関わりとかも変わってくるのかなと思いました。

——：ありがとうございます。

先生3：

貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。

去年はすごい賤機山（しずはたやま）に行っている子たちで、今年度はあんまり行けてなかったのですが、遊木の森に行く前に2回ほど賤機山に行って、すごいどんどん登っていった。私も初めてだったので、子どもたちすごいなって関心したのですが。先生たちから、遊木の森はもっと険しいよって聞いていて。どうかなって思っていたんですけど、子どもたち全然平気で、どんどんどんどん、登っていった、びっくりしたのがほんとに最初の感想です。

私たちのグループは、山に登る前に、栗とか枝とかを使ってちょっと遊んでみて、栗の実と枝をくっつけてスプーンができたり、そこにテーブルがあったので、そこでちょっとレストランごっこみたいな感じのが始まって。山に行ってお皿とか食材とかを探しに行ってみよっかみたいな感じで山に登っていったのですが。

見立てるのが何て言うんですかね、普段の生活でもちょっと発見を口にしてくれる子がいるんですけど、その子がどんどん、どんどん、「あ、これ、お皿にできそうだよ」とか、「もっと大きいお皿あるかな」とかって言って、次々に見つけてきて、たぶん賤機山にはないような植物とかもたくさんあったので、すごい興味津々で、いろんな葉っぱを見つけて、あれ、ちょっとくるんて跳ねてる葉っぱがあったときに、「これタコみたい」とか、すごい見立てて、想像力が豊かな一面が普段の生活よりも見られたかなと思いました。

普段は山に行くときも、ただただ登ることを目的にしてる子とかもいるんですけど、

その子も、友達の「ここに大きいのがあったよ」とかっていう発見につられて、「もっと大きいのがあったよ」とか、「これはどう?」とかって、ちょっとこう、見つけたものを共有できていたのかなと思いました。誰かがあっちで発見を共有したときに、「あ、ほんとだね」とか、「これいいね」とか。共感したり、認め合ったりする姿というのが、いつもより多く見られたのかなと。いつもだったら、誰かがそう言ってもあまり気にせずにとんどん、とんどん、行っちゃってた子も、ちょっと、「えっ?」みたいな感じで気づいて関心を持っていたのかなと思いました。

なので、気づいたことがすごいたくさん。初めて行った場所というのもあるんですけど、いろんなことを教えながら歩いてくれるっていうこともあって、いろんな方面で形とか色とかにおいとか、「この葉っぱはいい匂いがするんだよ」みたいな感じで教えてくれたこともあって、なんかすごい一つ一つに興味が大きかったのかなっていう姿が見られて、すごい楽しい時間になったなと思いました。ありがとうございました。



—：ありがとうございます。

やっぱり普段とは違う姿が見られたっていう感じですね。それはとてもうれしいですね。

園長先生：

ガイドさんがいろいろ教えてくれたのかなと思うんですけど、たぶんこういう写真の中でも、あれかな、葉っぱを透かして見てたのかな。普段だったら、たぶん、こうやって透かして見ようとかってなかなかね。やらないかなと思うんですけど、ガイドさんがね、「素敵なこういう遊び方もあるよ」って教えてくれたりとか、「葉っぱによって匂いが違うよ」とか丁寧に教えていただいたんで、やっぱりそういうので先生たちもこう、子どもたちにも伝えられたかなというのもあって、遊びがすごく広がったような感じがしました。



—：今回対象が年少さんだったからこそその意味というのはありましたか？実はこれまでの自然体験プログラムは割と年長さんが多かったのですが。

園長先生：

そうですね。幼稚園と保育園ではまた違うかなと思うんですけど、幼稚園のほうは2歳までお家にいて年少から初めて集団生活に入る子たちなので、やっぱり山道を歩くとかそういう体力面とかは、そこまでまだ出来上がってはないかなと思うんですけども、保育園の子たちだと、0歳児からいる子たちは、やっぱり日々の遊びの中で長く保育園にいるので、園庭で遊ぶ時間も長いですし、散歩行ったりだとか公園で遊んだりしているので、体力面とかはあるのかなとは思いますがね。

でもね、年少さんでこういう経験ができるのは、これから年中になったときに、すごく生きてくるっていうか、いろんな遊びの中でも、すごくこういう経験が活かされていくなっていうふうには思いました。年少の時期に自然の中でのびのび遊んで、そこからお友達関係とかも増やして行って、遊びの幅も広げていきたいっていう目指す子ども像があるので、ほんとにこういう経験をさせていただいたってことはありがたかったかなって思いました。

—：ありがとうございます。モデルプログラムから半月ぐらい経ってますけれど、何か変わったこととかありましたか？

先生3：例えば、園庭に生えてる草とかの形を見て、飛行機みたいなとか、すぐにパツと言うようになったり。

—：前は違いましたか？

先生3：

前はそんなに見立てるようなことはなかったです。それよりも走り回って遊んだりっていうのが好きな子たちで、虫とか植物が好きな子ももちろんいるんですけど、**パツ**と**言葉**に出るようになったかなって思うのと。あと、取りあえず匂いを嗅いでみようとしたりする姿が増えたかなと思って、何の匂いかなとか、この匂い、この葉っぱは匂い

するかなとか、しないかなとか、ちょっと切れた葉っぱから匂いがするとか、そういうちょっとしたことが増えたかなとは思いますが。

——：うれしいですね。覚えててくれてるんですね。すごいですね。

園長先生：これからの保育に、たぶん、先生たちも勉強させていただいたなって。

——：いやいや。こちらもとても多くの学びになりました。

園長先生：先生たち、教えていただいて、これからも生かされていくかなと思います。

——：本当にうれしいお話ばかりで、ありがとうございました。